

# あいち農産物生産流通レポート

平成29年8月号

	ページ
◎ 地域トピックス	
・「愛知県いちじく現地研究会」が東海市で開催されました (知多農林水産事務所)	1
・愛知県農業生産力パワーアッププロジェクトの取組 ～豊橋温室園芸農協が大葉選別試験機の実証を開始～ (東三河農林水産事務所)	2
◎ 東日本情報	
・京浜市場愛知県野菜連絡会から産地への提言 (東京事務所)	3
◎ 西日本情報	
・4月収穫キャベツの安定生産技術を開発 (農業総合試験場)	5
◎ フラワーページ	
・現代いけばなの展覧会「新しいけばな主義」が開催 (東京事務所)	6
◎ 青果	
・愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	7
・名古屋・東京市場における青果物の8月の見通し	8
◎ 花き	
・切り花・鉢花の8月の見通し(県内市場)	20

※ 今月、「情報サロン」はありません。

## 内容についての問合せ先

愛知県農林水産部食育消費流通課 (052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ (03)-5492-5400

平成29年4月号から、「全国における主要農産物の輸出入実績」、「関連指数」のページはなくなりました。それぞれの情報につきましては、

### 【輸出入実績】

農林水産省ホームページ内「農林水産物輸出入統計」  
<http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/kokusai/index.html>

### 【消費者物価指数】

全 国：総務省統計局ホームページ内「消費者物価指数月報」  
<http://www.stat.go.jp/data/cpi/>  
名古屋：愛知県県民生活部「名古屋市消費者物価指数」  
<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/toukei/bukka.html>

### 【農作物価指数】

農林水産省大臣官房統計部「農作物価統計調査」  
<http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/noubukka/>

### 【名古屋市小売価格】

総務省統計局「小売物価統計調査」  
[http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020101.do?\\_toGL08020101\\_](http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020101.do?_toGL08020101_)

を御覧ください。



## 「愛知県いちじく現地研究会」が東海市で開催されました

知多農林水産事務所

県内生産者の栽培技術及び産地情報の共有を図るために、平成 29 年 7 月 5 日(水)に東海市において、「愛知県いちじく現地研究会」(主催：愛知県果樹振興会)が開催されました。当日は、園地視察と産地紹介、講演及び総合討議が行われ、県内いちじく生産関係者約 300 名が参加しました。

### 1 園地視察

まず最初に、農業改良普及課が露地栽培と雨よけハウス栽培の 2 園の経営及び栽培概要の説明を行いました。その後、ほ場の様子を視察しながら、結果枝の誘引方法や雨よけハウス栽培での高温の影響などについて、園主も加えて活発な意見交換が行われました。

### 2 産地紹介

知多地域のいちじく生産の概要について、農業改良普及課から説明を行いました。

県内の他産地は「柘井ドーフィン」が主力品種である一方で、知多地域は大玉で出荷時期が早い「サマーレッド」が約 80%を占めていることや降雨対策として雨よけハウス栽培や露地の笠かけ技術にほぼ全ての生産者が取り組んでいることが特徴として紹介されました。



園地視察の様子

### 3 講演

大阪府立環境農林水産総合研究所の細見彰洋総括研究員を講師として迎え、「健全な樹体維持のための台木利用と主枝更新技術」と題し、講演が行われました。現在産地で課題となっている樹体維持について、いや地や株枯病対策としての台木の利用や、主枝を毎年更新することで樹体を常に若い状態に維持できる「リフレッシュせん定」の方法が説明されました。講演後は「いや地の原因」や「リフレッシュせん定の効果」などの多くの質問が寄せられ、樹体維持への関心の高さがうかがわれました。

### 4 総合討議

農業総合試験場企画普及部広域指導室の司会進行のもと、県内各産地から樹体維持に関する事例紹介や樹体回復対策への取組が報告され、今後のいちじく栽培の参考となりました。

参加者からは、「園地視察は自分の栽培と比較することができて、大変参考になった」「樹体維持の重要性やその技術的な対策が理解できた」といった感想が聞かれ、生産者にとって有意義な研究会になりました。

## 愛知県農業生産力パワーアッププロジェクトの取組 ～豊橋温室園芸農協が大葉選別試験機の実証を開始～

東三河農林水産事務所

東三河地域の大葉の生産量は、全国シェアの50%を超え、全国一の産地となっています。その一端を担う豊橋温室園芸農業協同組合（以下、豊橋温室園芸農協）において、愛知県農業生産力パワーアッププロジェクト推進事業を活用し、選別パック詰め機能を有した集出荷調製施設の整備に向けた取組が始まりました。

### 1 産地戦略における重点的な取組事項

平成28年度から始まった愛知県農業生産力パワーアッププロジェクト推進事業では、主要産地・品目ごとに「産地戦略」を取りまとめ、関係者が一体となった取組を展開することにより、産地の活性化を図ることとしています。

東三河農林水産事務所農政課では、農業改良普及課、豊橋温室園芸農協及び豊橋市と連携を図り、昨年10月に大葉の産地戦略を策定しました。この産地戦略においては、パッキングセンターの整備により生産者の出荷調製労力の軽減と機械選別による生産物の高品質化を図ること、農薬登録拡大試験の実施により新たな病害虫や薬剤感受性の低下に対応した化学合成農薬を確保するとともにIPM（総合的病害虫管理）技術の高度化により収量向上や周年安定生産を実現することを重点的な取組事項に掲げています。

### 2 豊橋温室園芸農協大葉産地戦略実証協議会の取組

平成29年4月28日に、豊橋温室園芸農協大葉産地戦略実証協議会（会長：豊橋温室園芸農協榎島弘光代表理事組合長）が設立されました。構成員には産地戦略の策定メンバーのほか、大葉部会の生産者及びJAあいち経済連を加え、事務局を豊橋温室園芸農協に置きました。この協議会では、県の農業生産力パワーアッププロジェクト推進事業を活用して、産地戦略に掲げた「選別パック詰め機能を有した集出荷調製施設の整備」に向け、大葉選別試験機を導入し施設整備規模を決定するための実証を進めています。

今後、実際の大葉サンプルを使用して大葉選別試験機の処理速度や歩留まりなどの稼働試験を実施し、出荷調製作業の機械化に対する生産者の理解を深めるとともに、集出荷調製施設の規模決定に向けた検討を進め、補助事業を活用した集出荷調製施設の整備による産地の収益力向上を目指します。



産地戦略実証協議会の様子



導入された大葉選別試験機

## 京浜市場愛知県野菜連絡会から産地への提言

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

平成29年7月4日（火）に、東京都中央区のコートヤード・マリオット銀座東武ホテルにおいて、京浜市場の卸売会社31社とJAあいち経済連により構成される京浜市場愛知県野菜連絡会の第42期全体会議および愛知県産秋冬野菜出荷反省会が開催されました。

この会議では、京浜市場愛知県野菜連絡会の次期の活動方針について検討されたほか、今期における本県産野菜の販売結果を総括するとともに、次期の出荷・販売に向けた本県産地への提言がされました。

### 1 各品目における本県産地への提言

会議では、本県産野菜のうち主要品目について、以下のとおり、販売経過や競合産地の動向、またこれを踏まえた本県への提言がありました。

#### 【主要品目への提言内容】

##### 【キャベツ】

- ・加工対応の強化  
→需要は増えているが対応しきれていない
- ・鉄コンの改良、他産地動向の分析  
→九州、関東で加工需要への積極的な動き
- ・出荷期間の長期化検討  
→首都圏近郊産地で取組進む。要調査



##### 【トマト】

- ・食味の維持向上  
→各主要産地で食味重視を加速させる動き
- ・厳寒期の安定出荷  
→急激な入荷量の減少は避けてほしい
- ・5月以降の黄変・軟化玉対策の徹底  
→品種選定や栽培管理の見直しを



## 【ミニトマト・カラー系ミニトマト】

### ①ミニトマト

- ・パック出荷の維持
  - 愛知をパック産地として活用する顧客の存在
  - 手間は理解するが、パック顧客を逃すことは大きな損失

### ②カラー系ミニトマト

- ・食味による差別化
  - 入荷量急増。食味次第で単価低迷の産地も



## 【ブロッコリー】

- ・鮮度維持策の検討
  - 発泡スチロールや氷詰めなどの工夫が進み、遠隔産地で生産拡大の動き
- ・需要期への対応強化
  - まだ伸び代があり、有利販売が可能な品目
- ・品質と生産量の維持
  - これまでのブランド力の維持を



## 2 品目共通で求められる“売りやすさ”

有利販売を推進するためには、消費者の購買意欲に繋がる「品質」や「ブランド力」が欠かせませんが、これと同時に、卸売会社・仲卸業者・小売業者において計画的な販売ができる“売りやすさ”も重要な要素となります。そのために求められるのが「出荷量の維持」「安定供給」「生育状況や出荷に関わる事前情報」などです。

従来より本県産地では、高い品質に加え、JAや経済連による生育状況や出荷に関わる事前情報の正確さが評価され「愛知ブランド」を確立してきました。一方、近年では他県産地もその精度を高めてきており、本県においても、更なる精度向上に努めていく必要があると考えられます。

## 3 “売りやすさ”のカギを握る生産者

“売りやすさ”を支える「産地からの情報」は、情報を取りまとめるJA営農指導員等の努力もありますが、基本的には各生産者が発する情報（作付け、生育状況、収穫間際の出荷計画など）の集合体といえます。

産地と卸売会社が一体となった有利販売に繋げていくためには、出荷量の維持、安定供給とともに、個々の生産者がより詳細で新鮮な情報を伝えることを意識し、「産地情報」として活かしていくことが大切です。

## 4月収穫キャベツの安定生産技術を開発

農業総合試験場

東三河地域は全国有数の冬春キャベツ産地ですが、4月収穫のキャベツは球内抽苔<sup>注1</sup>や結球不良、裂皮などが発生しやすく生産が不安定です。このため、定植時期と追肥方法を検討し、4月収穫のキャベツの安定生産技術を開発しました。(注1：ちゅうだい。花茎が伸長して花蕾が発達すること)

### 1 キャベツの定植時期

4月収穫のキャベツは、定植時期の気温が低くなると、結球に必要な葉数を確保する前に花芽分化し球内抽苔が進むため、結球不良となることが知られています。しかし、定植時期と品質の関係は不明だったため、苗を一定期間ごとに定植し、定植の限界時期を調査しました。その結果、10月6日以降の定植では、葉数の減少と、球内抽苔によるキャベツの品質低下が見られ、9月下旬が定植の限界時期であることが分かりました。



図1 キャベツの定植時期と結球の状態

### 2 追肥方法の開発

4月収穫の中でも、特に4月下旬に収穫されるキャベツは、気温の上昇により窒素の吸収量が増えて生育が促進されるため、球内抽苔の発生や旺盛な結球肥大による出荷規格の超過、裂皮の発生が問題となっています。

そこで本試験場では、JAあいち経済連との共同研究により、4月以降の窒素吸収を抑制する追肥方法を検討しました。2回目の追肥を12月下旬に、3回目を2月中旬に行うと、キャベツの窒素吸収量は4月以降も増加しました。

しかし、3回目の追肥を行わない場合、3月までの生育量は確保される一方で、4月以降は窒素の吸収が抑制され、結球肥大や球内抽苔を抑えられることが分かりました。

以上の結果から、9月下旬までに苗を定植し、12月下旬の2回目以降は追肥を行わないことで、4月収穫のキャベツを安定生産できることが明らかになりました。

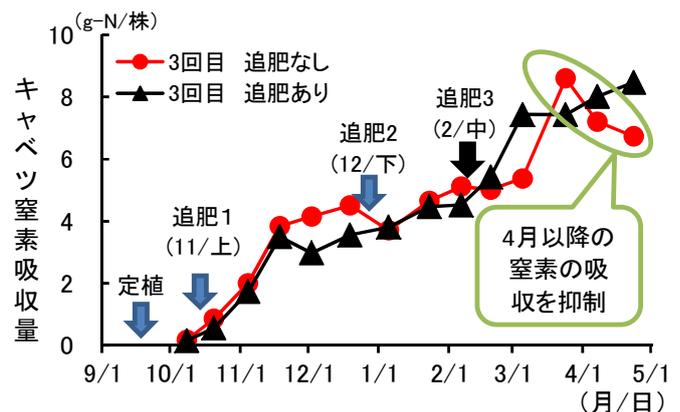


図2 キャベツ窒素吸収量の推移

## 現代いけばなの展覧会「新しいけばな主義」が開催

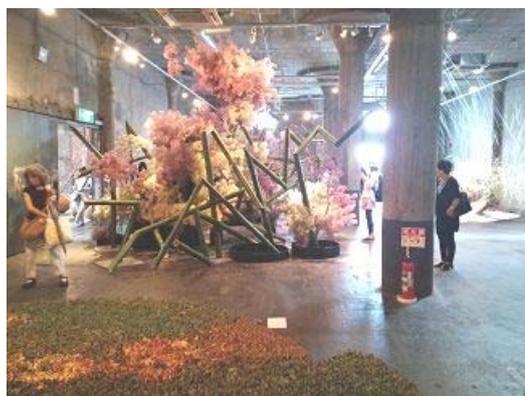
東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

平成 29 年 6 月 24 日（土）から 7 月 2 日（日）の 9 日間にかけて、横浜市の日本郵船海岸通倉庫（BankART Studio NYK）で、いけばな作家による展覧会「新しいけばな主義」が開催されました。

### 1 展覧会「新しいけばな主義」

このイベントは、現代いけばなをテーマとした展覧会で、「小原流」や「草月流」を始めとしたいけばな流派に所属する作家のほか、いけばな流派に所属しないフラワーアーティストからも出品があり、計 27 名の作品が展示されました。

会場では、縦、横、高さがそれぞれ 5 m と非常に大きな作品スペースに、既存のいけばなのイメージに収まらない様々な作品が展示され、多くの来場者で賑わいました。



展覧会の様子

### 2 いけばな作家らによるシンポジウム

展覧会最終日の 7 月 2 日（日）には、いけばな作家や美術評論家をパネリストに迎え、「これまでのいけばなの軌跡と、これからのいけばなの行方」と題したシンポジウムが開催され、現代いけばなの歩みについての振り返りと、今回の展覧会の総括がされました。

パネリストからは「明治時代以降、伝統文化とされてきたものに茶道、華道、香道等が挙げられるが、前衛的な運動が興ったのは華道であり、“現代いけばな”がその担い手であった。伝統回帰の流れもあり、かつてより規模は縮小してしまった感があるが、いけばな界に新しい風を吹き込み、活性化させていくためには、こうした動きを盛り上げていくことが必要」といった声が聞かれました。



シンポジウムの様子

いけばなは日本の伝統的な文化で、国際的にも広がっている芸術です。こうした展覧会やシンポジウムによりいけばな業界が活性化することで、花きの需要拡大が図られるよう期待したいと思います。

# 愛 知 産 青 果 物 の 動 向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

わずか : ±2%台以内  
 や や : ±3～5%台  
 かなり : ±6～15%台  
 大 幅 : ±16%以上

## ○ 名古屋中央卸売市場（品目：巨峰）

	入 荷 量 (t)	うち愛知産	卸 売 価 格 (円/kg)	愛知産	前年の主な他産地 (上位3産地)
	28年実績	1,014	148 (15%)	890	940
29年見通し	980	—	900	—	—
<b>入荷量及び卸売価格の概要と見通し</b>			<b>卸売市場から産地への要望・提言等</b>		
<p>卸売価格は巨峰が上昇傾向、シャインマスカットが下降傾向にあるが、依然として巨峰からシャインマスカットへの移行が続く。生育状況は、昨年が平年より前進した一方で今年はやや遅れており、果実も少雨により小玉傾向にある。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並となる見込み。</p>			<p>シャインマスカットの作付面積が増加する一方で、巨峰などの黒系ぶどうの生産は減少しているが、売場としては黒系ぶどうの確保は必須である。 産地においては作付面積の維持とともに、巨峰を始めとする黒系ぶどうの安定した出荷量の確保をお願いしたい。</p>		

## ○ 東京都中央卸売市場（品目：いちじく）

	入 荷 量 (t)	うち愛知産	卸 売 価 格 (円/kg)	うち愛知産	前年の主な他産地 (上位3産地)
	28年実績	1,208	552 (46%)	801	921
29年見通し	1,250	—	800	—	—
<b>概 要 と 見 通 し</b>			<b>卸売市場から産地への要望・提言等</b>		
<p>本県を中心に和歌山、福岡などから入荷する。本県の露地物は早かった前年より遅く平年並の生育で、盆明けに出荷ピークを迎える見込み。和歌山は前年は高温による傷みなどが多発したが、本年は品質良好。盆前に出荷ピークを迎え平年並の入荷となる見込み。福岡は「とよみつひめ」中心の入荷で、生育は順調に推移している。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年並となる見込み。</p>			<p>夏から秋の果物として定着している。本県産は、数量・品質ともに高く、量販店からも支持されている。商品の特性として傷みがやすく、品質管理が特に重要であるため検品をしっかりと行うとともに、等階級別選果の徹底に努めてほしい。 生産者の高齢化などにより生産規模が縮小傾向であるが、産地の維持・拡大をお願いしたい。</p>		

名古屋・東京市場における青果物の8月の見通し

名古屋市中央卸売市場

7月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格	前年主要産地 (%)			
				上旬	中旬	下旬	
野菜計	24年	32,547	185	178	189	192	北海道 31%
	25年	31,543	215	205	221	219	長野 22%
	26年	30,455	238	216	242	256	群馬 11%
	27年	31,113	253	263	263	238	岐阜 5%
	28年	31,027	230	239	226	224	
	5ヵ年平均	31,337	224	—	—	—	
	29年見通し	31,500	208	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道、長野を中心に入荷する。高温が続いており、猛暑による品質低下と盆過ぎ以降の入荷減が懸念される。九州の豪雨被害の影響は、この時期の九州産の入荷量も少なく、小さいと思われる。 入荷量は前年並で、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>							
だいこん	24年	1,891	73	69	72	84	北海道 48%
	25年	1,762	95	82	110	103	青森 37%
	26年	1,494	103	85	113	115	岐阜 15%
	27年	1,614	118	103	138	126	
	28年	1,434	114	95	126	132	
	5ヵ年平均	1,639	99	86	110	110	
	29年見通し	1,500	110	100	110	120	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道、青森を中心に入荷する。高温が続いており、7月中旬現在で入荷物に品質格差が見られる。猛暑の影響による歩留まりの低下が懸念され、8月中旬から入荷量が減少する可能性もある。 入荷量は前年をやや上回るが平年より少なく、価格は前年をやや下回る見込み。</p>							
にんじん	24年	2,119	92	95	90	95	北海道 95%
	25年	1,802	151	149	161	147	青森 4%
	26年	2,030	125	127	123	129	
	27年	1,924	174	192	162	167	
	28年	1,749	154	178	115	163	
	5ヵ年平均	1,925	138	146	129	139	
	29年見通し	2,000	120	120	130	110	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道を中心に、青森の残量が一部入荷する。北海道は例年になく生育が早い傾向で、順調な入荷が見込まれる。販売環境は学校の休みで給食需要の引き合いがなくなるなど、厳しくなる見通し。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>							

東京都中央卸売市場

7月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	24年	130,732	191	192	197	186	北海道 23%
	25年	126,860	228	223	223	236	群馬 16%
	26年	122,553	256	223	261	280	長野 14%
	27年	125,582	267	268	270	263	青森 8%
	28年	128,499	235	238	232	234	茨城 6%
	5ヵ年平均	126,845	235	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	128,000	240	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道、東北、高冷産地からの入荷が中心となる。各品目とも傷みなどは少なく入荷は順調。心配された空梅雨の影響は、やや小ぶりとなる品目はあるものの、入荷への影響は少ないと見られる。 入荷量は順調だった前年並で、価格は前年をわずかに上回る見込み。</p>							
だいこん	24年	9,800	68	57	70	75	北海道 60%
	25年	9,335	92	74	102	101	青森 35%
	26年	9,348	102	77	112	114	茨城 4%
	27年	9,412	121	101	133	128	岩手 2%
	28年	8,636	118	90	137	131	長野 2%
	5ヵ年平均	9,306	100	79	110	109	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	8,200	110	110	110	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道、青森からの入荷がほとんどを占める。北海道は6月の降雨の影響により盆前の出荷が緩慢で、平年作の青森も生産者の減少から出荷量は前年を下回る見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は平年より高値となるものの前年をかなり下回る見込み。</p>							
にんじん	24年	7,098	96	98	96	94	北海道 87%
	25年	6,269	147	145	160	140	青森 8%
	26年	6,875	114	116	113	113	中国 3%
	27年	6,635	167	189	158	155	千葉 1%
	28年	6,700	145	169	117	146	
	5ヵ年平均	6,715	133	143	128	129	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	6,700	120	130	115	115	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道を中心に青森などからの入荷となる。一部産地で6月の降雨やその後の少雨により播種作業の遅れや出荷物が小ぶりとなるなどの影響がでている。下旬には後続産地が出揃うと見られる。 入荷量は前年並で、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>							

名古屋市中央卸売市場

7月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
はんぱい	24年	1,659	58	60	73	53	長野 100%
	25年	1,335	100	96	113	108	
	26年	1,423	115	99	136	126	
	27年	1,434	109	104	146	96	
	28年	1,690	56	61	62	58	
	5ヵ年平均	1,508	85	82	103	86	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	1,500	60	60	60	60	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>長野が中心の入荷となる。長野の作況は良好でだが、高温による今後の品質低下も懸念される。荷動きは盆時期まで悪く、盆を過ぎた頃に回復すると思われる。 入荷量は前年をかなり下回るが平年並で、価格は安かった前年をかなり上回る見込み。</p>							
キヤベツ	24年	4,638	60	57	72	58	群馬 72% 長野 19% 北海道 7%
	25年	4,252	83	76	84	94	
	26年	4,048	98	86	105	110	
	27年	4,206	103	103	114	102	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	28年	4,438	77	78	81	79	
	5ヵ年平均	4,316	84	79	91	88	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	4,500	70	60	70	80	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>群馬を中心に長野、北海道から入荷する。各産地とも生育状況は順調で、販売情勢は厳しくなる見通し。 入荷量は前年並で、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>							
ほうれんそう	24年	206	687	645	716	695	岐阜 87% 静岡 4% 長野 3% 茨城 2%
	25年	184	658	546	656	797	
	26年	143	797	689	731	1,017	
	27年	159	867	760	821	789	
	28年	178	682	624	690	795	
	5ヵ年平均	174	731	648	720	807	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	160	700	650	700	750	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>岐阜の飛騨高山を中心に入荷する。7月中旬現在の入荷は順調だが、高温により生育が早い傾向にある。今後は高温障害が課題となり、盆時期の品質低下と入荷減が懸念される。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をわずかに上回る見込み。</p>							

東京都中央卸売市場

7月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	24年	5,682	59	57	76	50	長野 95% 群馬 4% 北海道 1%
	25年	5,816	101	93	107	103	
	26年	5,529	113	91	128	117	
	27年	6,320	114	102	150	97	
	28年	6,024	57	55	58	57	
	5ヵ年平均	5,874	89	80	104	85	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	6,000	60	60	60	60	
さい	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>長野からの入荷が中心となる。少雨による生理障害や出荷への影響は少なく、今後の天候が崩れなければ、7月と同様に順調な入荷が見込まれる。 入荷量は前年並で、価格は安値だった前年をやや上回る見込み。</p>						
キヤベツ	24年	15,491	54	48	67	51	群馬 79% 岩手 14% 長野 4% 北海道 2%
	25年	15,333	80	71	81	89	
	26年	14,423	94	73	100	107	
	27年	15,657	103	94	110	105	
	28年	16,486	70	66	72	72	
	5ヵ年平均	15,478	80	70	86	84	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	16,000	70	70	70	70	
べ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>群馬、岩手からの入荷が中心となる。群馬は5月末の降雹による病気も懸念されたが、その後の天候も良く影響は限定的。7月中旬からは例年どおり出荷盛期に入っており玉肥大も良好。 入荷量は多かった前年をわずかに下回り、価格は前年並となる見込み。</p>						
ほうろ	24年	800	613	561	668	619	群馬 31% 栃木 25% 茨城 16% 岩手 11% 岐阜 7%
	25年	796	638	522	660	749	
	26年	754	778	661	712	970	
	27年	695	857	797	951	828	
	28年	788	659	583	683	731	
	5ヵ年平均	767	704	620	729	776	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	720	700	660	720	720	
れん	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>群馬、栃木などの関東高冷産地と岩手からの入荷となる。ここまで播種、生育はおおむね順調で平年作と同等の見込み。 入荷量は豊作基調だった前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>						

名古屋市中央卸売市場

7月14日現在

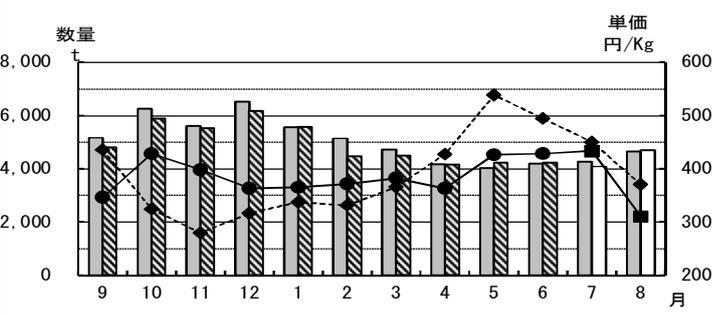
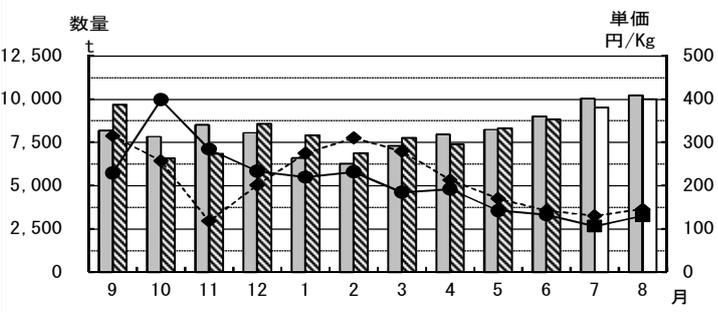
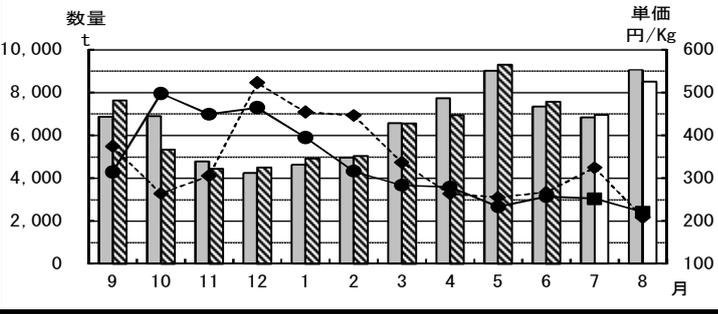
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	24年	835	347	342	378	346	北海道 29%
	25年	718	427	431	459	415	愛知 12%
	26年	718	421	384	490	413	長野 11%
	27年	747	425	426	467	408	富山 9%
	28年	732	389	386	401	404	
	5カ年平均	750	400	392	437	396	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	750	400	400	400	400	
ぎ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>北海道、愛知、長野などから入荷する。北海道の白ねぎは作付面積が微増し、生育順調。他産地も順調である。愛知の長ねぎも生育良好だが、盆過ぎの高温障害が懸念材料となる。</p> <p>入荷量は前年をわずかに上回り、価格も前年をわずかに上回る見込み。</p>						
し	24年	2,429	126	135	135	131	長野 99%
	25年	2,663	140	145	138	155	
	26年	2,519	217	176	195	294	
	27年	2,483	197	206	218	183	
	28年	2,429	154	137	160	181	
	5カ年平均	2,505	167	160	169	189	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	2,500	140	140	140	140	
ス	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>長野が中心の入荷となる。7月中旬現在の入荷は平年をやや下回る状況。8月の動向は天候次第であるが、盆過ぎ以降の入荷量は減少する見通し。</p> <p>入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>						
きゅうり	24年	1,570	227	216	218	252	長野 61%
	25年	1,423	295	241	229	421	北海道 17%
	26年	1,231	408	230	449	563	山形 6%
	27年	1,429	315	297	310	371	山梨 5%
	28年	1,643	239	214	208	300	
	5カ年平均	1,459	291	239	275	372	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	1,500	286	240	300	320	
り	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>長野を中心に北海道、山形などから入荷する。各産地とも順調だが、6月の干ばつと7月の高温の影響を受け、今後は品質低下と入荷量の減少が懸念される。</p> <p>入荷量は前年をかなり下回り、価格は安かった前年を大幅に上回る見込み。</p>						

東京都中央卸売市場

7月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	24年	4,736	274	261	325	252	茨城 32%
	25年	4,605	379	378	448	340	青森 19%
	26年	4,560	341	303	409	320	秋田 15%
	27年	4,629	392	370	453	367	北海道 11%
	28年	4,645	370	336	420	366	中国 4%
	5ヵ年平均	4,635	351	329	411	329	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	4,700	310	300	330	300	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							<p>茨城、東北、北海道からの入荷となる。茨城では少雨の影響から太物が入荷が少なく、北海道、東北では低温により生育が遅れている。出荷量が微増する産地もあるが全体では前年並となる見通し。 入荷量は前年並で、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>
し	24年	9,774	120	123	123	115	長野 82%
	25年	10,171	140	139	134	148	群馬 16%
	26年	8,784	194	181	198	320	岩手 1%
	27年	9,585	198	206	216	177	
	28年	10,216	145	122	144	172	
	5ヵ年平均	9,706	158	153	162	183	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	10,000	130	110	140	140	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							<p>長野、群馬からの入荷がほとんどを占める。長野は7月下旬の降雨で干ばつの影響が一段落し、順調な入荷が予想される。群馬は干ばつの影響が残り小玉の仕上がりとなり、順調だった前年を下回る見通し。 入荷量は順調だった前年をわずかに下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>
きゅうり	24年	9,301	178	165	163	201	福島 42%
	25年	8,008	264	217	184	396	岩手 21%
	26年	7,157	391	194	451	559	秋田 14%
	27年	8,160	289	267	250	360	山形 6%
	28年	9,054	208	177	191	259	宮城 4%
	5ヵ年平均	8,336	259	203	240	344	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	8,500	220	220	210	230	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							<p>福島、岩手など東北産地からの入荷が中心となる。ハウスのピークが過ぎ、8月に向けて露地物が揃う。6月の低温による遅れは回復し、7月は順調な入荷となったが、8月は成り疲れの懸念がある。 入荷量は前年を下回るものの前年並で、価格は前年をやや上回る見込み。</p>

名古屋市中央卸売市場

7月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	24年	1,151	182	201	178	175	愛知 36%
	25年	997	202	230	165	221	山梨 22%
	26年	840	329	275	364	358	徳島 21%
	27年	1,094	278	333	277	245	岐阜 6%
	28年	1,110	216	255	188	203	
	5ヵ年平均	1,038	237	258	229	234	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	1,100	225	225	200	250	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
愛知、山梨、徳島の3県を中心に入荷する。7月中旬現在の入荷量は前年の同時期を上回り、8月中旬までは順調な入荷が見込まれる。しかし、それ以降は高温による入荷減も懸念される。 入荷量は前年並で、価格は前年をやや上回る見込み。							
ト マ ト	24年	1,773	287	291	250	320	岐阜 63%
	25年	1,881	313	326	281	334	北海道 19%
	26年	1,839	299	262	262	363	愛知 9%
	27年	1,702	304	273	282	361	長野 5%
	28年	1,949	275	301	248	278	
	5ヵ年平均	1,829	295	291	264	330	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	1,900	250	250	250	250	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
岐阜を中心に、北海道、愛知などから入荷する。7月中旬現在の入荷量は前年の同時期を上回り、生育状況は全体的に良好となっている。 入荷量は前年をわずかに下回るが平年以上で、価格は前年をかなり下回る見込み。							
ミ ニ ト マ ト	24年	451	428	493	348	453	北海道 76%
	25年	450	562	523	517	628	長野 11%
	26年	457	511	482	453	589	愛知 6%
	27年	441	571	578	568	595	山形 2%
	28年	500	607	694	587	541	
	5ヵ年平均	460	537	557	496	561	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	450	550	550	550	550	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
北海道を中心に長野、愛知などから入荷する。7月中旬現在の北海道の入荷状況は順調であるが、今後は高温障害による入荷量の減少も懸念される。 入荷量は前年をかなり下回り、価格も前年をかなり下回る見込み。							

東京都中央卸売市場

7月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	24年	5,690	175	188	182	159	群馬 30%
	25年	5,478	207	227	148	248	栃木 28%
	26年	4,621	297	223	330	343	茨城 26%
	27年	5,126	266	283	245	272	埼玉 6%
	28年	5,479	227	249	180	247	岩手 3%
	5ヵ年平均	5,279	231	234	213	250	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	5,500	230	230	220	240	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、栃木、茨城からの入荷が中心となる。各産地とも高温の影響が散見されるが大きな影響はなく、生育は概ね順調となっている。一部で乾燥により害虫の発生あるが収量への影響は少ない。 入荷量は前年並で、価格は前年をわずかに上回る見込み。</p>					
ト マ ト	24年	11,413	245	232	222	274	青森 21%
	25年	10,266	289	300	253	308	福島 17%
	26年	9,833	264	239	233	320	北海道 16%
	27年	9,009	294	257	257	387	群馬 12%
	28年	10,663	262	288	238	256	岩手 10%
	5ヵ年平均	10,237	270	263	240	306	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	10,500	260	260	250	270	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>青森、北海道、福島、群馬からの入荷が中心となる。7月の高温により各産地とも花落ちが散見される。現状では大きな影響はないが、今後の天候により減収の可能性もある。 入荷量は前年並だが天候次第で減少、価格は前年並だが平年を下回る見込み。</p>					
ミ ニ ト マ ト	24年	1,512	425	441	351	465	北海道 31%
	25年	1,643	561	544	540	590	青森 16%
	26年	1,702	552	509	524	619	岩手 13%
	27年	1,743	599	551	569	673	福島 13%
	28年	1,914	614	688	600	562	茨城 12%
	5ヵ年平均	1,703	555	553	523	584	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	1,800	550	540	530	580	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、東北産地からの入荷が中心となる。北海道は生育順調で8月中旬まで潤沢な出荷が見込まれる。茨城は半促成作型で高温により花を落としたものの、切り替わる抑制作型の生育はおおむね良好。 入荷量は多かった前年をかなり下回り、価格も前年をかなり下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

7月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	24年	470	245	304	266	219	北海道 42%
	25年	442	323	441	292	319	岩手 41%
	26年	424	315	270	292	409	長野 10%
	27年	482	424	407	460	448	青森 2%
	28年	442	279	347	306	297	
	5ヵ年平均	452	318	355	325	338	
	29年見通し	450	300	300	300	300	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、岩手を中心に入荷する。産地では6月の低温で出遅れが見られたが、7月中旬現在の入荷状況は順調。7月下旬から8月中旬にかけて集中入荷が見込まれる。入荷量は前年並で、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
ばれいしょ	24年	2,019	89	85	90	94	北海道 75%
	25年	1,974	177	215	193	149	青森 19%
	26年	2,296	132	140	131	132	静岡 5%
	27年	2,438	142	171	152	125	茨城 1%
	28年	2,480	147	164	153	143	
	5ヵ年平均	2,241	138	155	144	129	
	29年見通し	2,400	140	150	140	130	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に青森、静岡などから入荷する。春作の残りが出る静岡は小玉傾向だったが、北海道と青森の生育状況は順調で安定した入荷が見込まれる。入荷量は前年をやや下回るが平年より多く、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
たまねぎ	24年	3,430	122	134	132	112	北海道 57%
	25年	4,178	102	103	107	100	兵庫 31%
	26年	3,982	126	129	137	121	愛知 6%
	27年	3,795	139	160	142	124	中国 4%
	28年	3,439	176	211	189	155	
	5ヵ年平均	3,765	132	145	140	122	
	29年見通し	3,900	110	120	110	100	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、兵庫を中心に入荷する。昨年は佐賀でべと病が発生した影響を受けたが、今年は平年並の入荷が見込まれる。現在は淡路島が中心だが、数量は少なめ。8月に入荷が増える北海道は生育順調。入荷量は前年をかなり上回り、価格は高かった前年を大幅に下回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

7月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	24年	2,167	187	275	172	144	岩手 54%
	25年	2,052	265	377	213	231	茨城 18%
	26年	1,841	319	282	290	384	青森 12%
	27年	1,860	398	371	451	382	福島 12%
	28年	2,162	229	288	202	202	高知 1%
	5ヵ年平均	2,016	275	318	260	262	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	2,100	250	270	240	240	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>岩手、福島などの東北産地と茨城からの入荷が中心となる。低温による遅れが回復し、今後は潤沢な入荷が見込まれる。上旬は遅れていた荷が重なり増えることも懸念される。入荷量は潤沢だった前年をわずかに下回り、価格は低かった前年をかなり上回るが平年を下回る見込み。</p>					
ばれいしよ	24年	5,589	93	82	95	98	北海道 80%
	25年	5,507	171	195	181	154	青森 8%
	26年	6,413	131	131	130	130	茨城 7%
	27年	6,961	133	154	133	121	千葉 3%
	28年	6,503	147	158	145	143	静岡 1%
	5ヵ年平均	6,195	135	144	137	129	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	6,800	135	135	135	135	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に青森、茨城から入荷する。北海道は干ばつ、曇天などの影響を受け、やや小玉傾向だが、生育はおおむね順調で収量は増加傾向。入荷量は前年をやや上回り、価格は高値となった前年をかなり下回るものの平年並となる見込み。</p>					
たまねぎ	24年	8,450	130	141	130	123	北海道 58%
	25年	9,797	112	115	115	109	兵庫 21%
	26年	10,162	132	131	135	130	中国 14%
	27年	10,359	134	160	134	118	佐賀 1%
	28年	9,412	170	191	177	152	群馬 1%
	5ヵ年平均	9,636	135	147	138	126	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	11,300	85	90	85	80	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、兵庫からの入荷が中心となる。北海道はおおむね生育良好。極早生品種の作付けを増やした産地もあり入荷増。佐賀も出荷量を減らした前年より入荷増の見込み。入荷量は前年を大幅に上回り、価格は高騰した前年を大幅に下回る見込みで、平年と比べても下回る。</p>					

名古屋市中央卸売市場

※「その他メロン」は「アールスメロン」以外のメロンをいう。

7月21日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	24年	11,605	342	357	328	341	長野 29%
	25年	11,231	351	369	327	350	山形 13%
	26年	10,208	361	352	365	359	愛知 11%
	27年	8,950	435	444	445	419	フィリピン 9%
	28年	9,757	401	436	381	357	
	5ヵ年平均	10,350	375	—	—	—	
	29年見通し	9,400	390	—	—	—	前年及び本年の入荷量・価格の動き
実計	産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>長野、山形、愛知などから入荷する。過去2年に比べて入荷の遅れている品目が多く、26年に近い荷動きと見られる。一方で、7月の高温による入荷の前倒しと小玉化の可能性も考えられる。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>						
アール メ ロ ン	24年	286	514	—	—	—	愛知 56%
	25年	271	507	—	—	—	静岡 26%
	26年	248	537	—	—	—	茨城 8%
	27年	221	641	—	—	—	青森 5%
	28年	247	553	—	—	—	
	5ヵ年平均	255	547	—	—	—	
	29年見通し	230	530	—	—	—	前年及び本年の入荷量・価格の動き
メロン	産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>愛知、静岡が入荷の中心となる。主産地である愛知の生育状況は順調で、予定通り盆前までに集中的な入荷が行われ、盆前にはほぼ入荷が終了する見通し。栽培面積は年々減少している。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>						
す い か	24年	2,973	155	161	153	149	長野 35%
	25年	2,595	174	165	185	201	山形 24%
	26年	2,470	132	145	141	111	秋田 16%
	27年	1,901	213	212	234	193	青森 6%
	28年	2,256	183	207	179	121	
	5ヵ年平均	2,439	169	175	175	154	
	29年見通し	2,400	180	—	—	—	前年及び本年の入荷量・価格の動き
すいか	産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>長野、山形、秋田などから入荷する。入荷が遅れており、山形や秋田の7月入荷分が後ろにずれこむため、7月入荷量の減少分、8月入荷量は増加すると思われる。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年並となる見込み。</p>						

東京都中央卸売市場

7月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	24年	41,317	337	336	337	338	山形 19%
	25年	41,184	339	354	328	330	山梨 11%
	26年	40,624	348	334	365	348	福島 10%
	27年	36,074	423	417	446	411	長野 9%
	28年	40,346	379	417	371	340	青森 6%
	5ヵ年平均	39,909	364	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	40,000	410	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	なし、もも、ぶどう中心に入荷。ももやハウスみかんは小雨により小玉傾向がみられるほか、ぶどうは気温高による着色遅れが懸念される。全般に盆前までは品薄傾向だが、盆明け以降は入荷量が回復し、価格は下げ基調となる見込み。 入荷量は前年並で、価格は前年をかなり上回る見込み。						
アールスメロン	24年	633	502	472	658	460	静岡 35%
	25年	682	501	505	589	453	茨城 30%
	26年	632	540	518	666	462	青森 15%
	27年	590	659	639	787	591	山形 9%
	28年	603	546	600	586	454	愛知 5%
	5ヵ年平均	628	547	544	655	482	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	600	550	600	580	480	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	静岡、茨城中心に入荷。静岡は干ばつ気味で小玉傾向が見られるほか、生産者間で生育のバラツキがあり、上位等級の比率が低くなる可能性がある。茨城は盆前は2玉中心の出荷となり、下旬まで潤沢な出荷がされる見込み。 入荷量、価格ともに前年並の見込み。						
すいか	24年	11,830	155	157	147	158	山形 51%
	25年	9,270	174	157	182	210	秋田 14%
	26年	11,171	137	140	141	124	長野 14%
	27年	8,465	213	206	238	189	青森 8%
	28年	9,980	175	205	161	118	神奈川 7%
	5ヵ年平均	10,143	168	171	170	157	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	29年見通し	10,000	190	210	170	160	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	山形、長野を中心に入荷する。山形は低温により生育が遅れ気味であるが、玉肥大はおおむね順調で盆までは潤沢な入荷となる見込み。長野は天候に恵まれ生育・着果ともに順調に推移しており、前年並の出荷が見込まれる。 入荷量は前年並で、価格は前年をかなり上回る見込み。						

# 切花・鉢花の8月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 7月31日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き	
	実績等					
輪 ぎ	実績	24年	2,375	65		
		25年	2,289	56		
		26年	2,163	60		
27年		2,200	60			
28年		2,641	55			
5ヶ年平均		2,334	59			
29年見通し		2,500	57			
概要	愛知、長野、三重などから入荷する。白菊は精の一世中心となり、上位等級比率が高めの入荷。色物は長野中心で昨年よりも作付けは少なく、若干の遅れが見られる。					
小 ぎ	実績	24年	2,602	35		
		25年	2,696	31		
		26年	2,082	37		
27年		1,704	47			
28年		2,477	36			
5ヶ年平均		2,312	36			
29年見通し		2,500	36			
概要	愛知、長野、奈良、埼玉、岩手などから入荷する。高冷地産にやや遅れはあるものの各産地が出揃い、入荷量も増えてくる。前半は盆需要で堅調だが、盆明けに出荷が残ると後半は需要減で苦しい場面も見込まれる。					
カ ー ネ ー シ ョ ン	実績	24年	1,411	38		
		25年	1,167	46		
		26年	1,185	48		
27年		1,200	45			
28年		1,347	44			
5ヶ年平均		1,262	44			
29年見通し		1,300	44			
概要	長野県を中心に北海道などから入荷する。少し遅れ気味だが、盆には間に合うと思われる。一方で、盆明けは少し厳しい情勢。					
か す み 草	実績	24年	118	85		
		25年	103	121		
		26年	104	130		
27年		118	117			
28年		138	89			
5ヶ年平均		116	107			
29年見通し		130	100			
概要	長野、福島から入荷する。前半は順調に入荷されるが、中旬以降はやや少ない見通し。業務中心の販売で量が多いと厳しい販売となる。					

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	24年	549	137	
		25年	433	159	
		26年	401	166	
		27年	237	96	
		28年	455	159	
	5ヶ年平均	415	147		
29年見通し	420	155			
概要	<p>オリエンタルは新潟、岐阜、北海道からの入荷で、やや多めの入荷量。LAは埼玉、新潟からの入荷で、盆需要にはほぼぴったりの入荷量となる。鉄砲は上旬から増えてくる。生産量が減少していることが懸念される。ゆり全体では生育は順調だが、天候次第で出荷量は変化する。相場は例年並と思われる。</p>				
洋らん	実績	24年	464	88	
		25年	484	83	
		26年	402	108	
		27年	507	82	
		28年	453	86	
	5ヶ年平均	462	89		
29年見通し	450	85			
概要	<p>愛知、鹿児島、静岡、輸入などから入荷する。気温が高く販売に厳しい季節で、品質差が価格に大きく影響する。特にコショウラン、カトリアなどにおいて品質の差が大きくなると思われる。</p>				
ばら	実績	24年	736	50	
		25年	623	54	
		26年	428	102	
		27年	580	57	
		28年	695	49	
	5ヶ年平均	612	59		
29年見通し	650	50			
概要	<p>山形、長野、愛知、岐阜を中心に入荷する。高温により花卉の巻きも少なくなっている。盆明けに伊勢の出荷も再開するが、8月中の入荷量はあまり増えない見込み。</p>				
枝も	実績	24年	2,265	57	
		25年	2,073	55	
		26年	1,949	61	
		27年	1,898	66	
		28年	2,028	66	
	5ヶ年平均	2,043	61		
29年見通し	2,000	66			
概要	<p>九州、静岡、長野から盆商材が入荷する。ホオズキは生産減と九州の水害により入荷が厳しい状況となっており、引き合いは非常に強い。稽古花材は需要が少なく、軟調気味。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ア ン ス リ ウ ム	実 績	24年	14,987	913	
		25年	14,493	989	
		26年	13,836	943	
		27年	11,729	863	
		28年	12,095	900	
	5ヶ年平均		13,428	925	
	29年見通し		12,000	900	
概要	入荷量は昨年並か。作付け量に大きな変更はなく、6号サイズ主体の入荷、MIXでの入荷が多い見込み。色別では「赤、ピンク、白」の引き合いが強く、特殊な色は苦戦すると思われる。昨年8月の主要県の入荷実績(金額ベース)は、1位愛知(99.1%)、2位福岡(0.5%)、3位岐阜(0.3%)となっている。				
シ ヤ コ バ サ ボ テ ン	実 績	24年	9,362	317	
		25年	7,746	334	
		26年	7,616	342	
		27年	10,346	336	
		28年	7,405	369	
	5ヶ年平均		8,495	338	
	29年見通し		7,000	357	
概要	入荷量は昨年より減少か。例年どおり盆明けからの出荷予定となる中、5号鉢以下の商品で引き合いが強く、6号以上はやや苦戦すると予想される。生産数量は、昨年より5号鉢が大きく減少しているため、競売分の出荷は今年も減少する見込み。注文で商品を確認する必要があると思われる。昨年8月の主要県の入荷実績(金額ベース)は、1位埼玉(88.2%)、2位愛知(11.8%)となっている。				
バ ラ 及 び ミ ニ バ ラ	実 績	24年	5,883	145	
		25年	6,156	100	
		26年	4,430	109	
		27年	6,714	141	
		28年	9,230	95	
	5ヶ年平均		6,483	116	
	29年見通し		9,200	96	
概要	入荷量は昨年並か。気温の上昇が予測されるため、店頭でも花の進みが早いと思われる。そのため、固めでの出荷を望む。昨年8月の主要県の入荷実績(金額ベース)は、1位岐阜(51.9%)、2位愛媛(41.8%)、3位愛知(5.5%)となっている。				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
オンシジユ	実績	24年	3,263	813	
		25年	3,000	800	
		26年	2,833	781	
		27年	2,858	695	
		28年	3,131	656	
	5ヶ年平均		3,017	750	
	29年見通し		3,050	656	
ウム	概要	<p>入荷量は昨年より減少か。作付けが減っていることと、昨年比べて開花が進んでおらず、出荷が増加する時期は8月下旬頃からと予想される。これからの時期は軟腐病などの病気も出やすいので注意が必要である。また、気温が高く店頭ではすぐに花が開いてくるので、出荷時は蕾多めでの出荷をお願いしたい。昨年8月の主要県の入荷実績(金額ベース)は、1位愛知(44.3%)、2位高知(28.0%)、3位長崎(17.8%)となっている。</p>			
スパテイ	実績	24年	10,885	185	
		25年	8,796	201	
		26年	8,066	184	
		27年	4,715	275	
		28年	835	452	
	5ヶ年平均		6,659	208	
	29年見通し		800	450	
ラク	概要	<p>入荷量は昨年より減少か。6号の入荷が多少ある程度で他のサイズの入荷は少ない見込み。5号の花上がりの良い物があれば売れると思われる。昨年8月の主要県の入荷実績(金額ベース)は、1位愛知(56.7%)、2位三重(39.7%)、3位岐阜(2.2%)となっている。</p>			
ドラセナ類	実績	24年	24,660	675	
		25年	20,531	725	
		26年	15,599	915	
		27年	24,000	750	
		28年	15,486	783	
	5ヶ年平均		20,055	757	
	29年見通し		15,000	767	
概要	要	<p>入荷量は昨年よりも減少か。愛知県産が中心ではあるが輸入原木の減少から入荷減の見込み。入荷の中心は定番のマッサン、ユッカ、ジェレ、コンシンネの7号が中心となる。昨年8月の主要県の入荷実績(金額ベース)は、1位愛知(73.6%)、2位鹿児島(11.0%)、3位沖縄(4.7%)となっている。</p>			



## いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.530  
平成29年8月発行  
農林水産部食育消費流通課  
〒460-8501  
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号  
電話 (052) 954-6434